

令和 5 年度

長崎国際大学 人間社会学部国際観光学科

共同研究

「関係人口」がかかわる伝統文化行事の継承の意味を探る

ー三川内地域との連携実践を通して

連携実践記録

長崎国際大学 人間社会学部 国際観光学科

佐野香織（編）

序

本報告書は、令和 5 年度長崎国際大学人間社会学部国際観光学科共同研究の助成を受け実施した研究「関係人口」がかかわる伝統文化行事の継承の意味を探る－三川内地域との連携実践を通して」の連携実践記録をまとめたものである。

国際観光学科と三川内山地域のおくんちとのかかわりは、令和 2 年（2020 年）の冬に始まった。当時、コロナ渦にあったため、大学のすべての授業はオンラインで行われ、佐世保市外への人の往来や、大人数での会合から町の伝統行事にいたるまで、「自粛」という言葉の下、開催されることはなかった。

このような状況において、三川内山地域の人々が危惧していたことは、地域の人々をつなぎ、年に一度の楽しみとして続いてきた祭り、「三川内山おくんち」に係る行事の存続と継承であった。三川内山町づくり部のみなさんから、本学国際観光学科に外部参加者として、ひいてはまちづくりの支援として本学国際観光学科にかかわりのご相談をいただいた。そのお話から早 3 年、コロナ渦で令和 3 年、令和 4 年のおくんち開催は見送られる中、本学佐野香織研究室を中心に、三川内山におけるおくんちの聴き取り調査、聞き取り調査を元にした動画作成、まちの人々との動画視聴会、はまぜん祭りへの参加等を通して、町の人々とのかかわりを続けてきた。これらの成果は、資料として本報告書の最後に添付する。

本報告書は、令和 5 年 10 月 25 日、長い歴史の中で初めて外部参加者として本学学生（交換留学生を含む）が参加した三川内山おくんちの開催連携実践の記録である。令和 5 年度の連携実践動画記録については、巻末の資料にリンクと QR コードを掲載しているので参照されたい。まとめるにあたり、三川内山町づくり部 中里智徳氏（天満宮総代）、中里太陽氏他、町づくり部の皆様、三川内山町内会の皆様、三川内山住民の皆様、堤暢亨氏（住吉神社/天満神社宮司）にご協力を賜った。また、三川内山との連携当初には、長崎国際大学元教授の板垣朝之氏にご尽力を賜った。ここに感謝を申し上げる。

なお、本連携実践および連携実践記録は、佐野香織（全体統括、編集、執筆）、本学教員で共同研究者の東出朋講師（連携実践調整、校閲）、本学人間社会学研究科観光学専攻大学院生の金美静（写真撮影、執筆 2 章、3 章）が担当した。

本実践記録の発刊が、これまで記録として残されていない三川内山のおくんちの現在のあり様の一端を示す一助になることを願う。そして、今後のまちと神事、伝統文化行事の継承の意味と、超高齢社会における「関係人口」、在住外国人を含む多様な人々とともに生きるまちづくり、人とのかかわりのあり方を問う一助になることを期待している。

長崎国際大学 人間社会学部 国際観光学科
佐野香織

目次

| | |
|------------------------------|----|
| 1. 連携実践に至る背景..... | 1 |
| 2. 連携実践の概要 | 2 |
| 3. 連携実践地（三川内地区）の概要..... | 2 |
| 3.1 地理 | 2 |
| 3.2 人口 | 3 |
| 3.3 気候 | 3 |
| 3.4 自然災害 | 3 |
| 3.5 産業 | 3 |
| 3.5.1 農業 | 3 |
| 3.5.2 窯業 | 3 |
| 3.6 三川内山の生活 | 4 |
| 3.7 交通 | 4 |
| 4. 令和5年度三川内山おくんちの連携実践記録..... | 5 |
| 4.1 三川内山おくんち | 5 |
| 4.2 しめ縄作り | 8 |
| 4.3 前夜祭 夜神楽・当夜太鼓..... | 10 |
| 5. 三川内山おくんち当日の連携実践記録..... | 12 |
| 5.1 概要 | 12 |
| 5.2 三川内山おくんちに用いる用具..... | 12 |
| 5.3 三川内山おくんち 当日の流れ..... | 13 |
| 文献 | 18 |
| 資料 | 19 |

1. 連携実践に至る背景

近年、日本の少子高齢化、人口減少は急激に進んでいる。特に地方では、その進み方に歯止めをかけることができないまま、課題が増大している。長崎県もその課題に直面している地方自治体の一つである。長崎県では若年層を中心とした県外への人口流出の常態化が大きな問題となっており、2040年頃には生産年齢人口が県人口の5割を切ると予測されている(文化庁 2024)。

このような中、国家としても長崎県としても経済政策として取り組んでいるのが、国内移住者促進、および、外国人の積極的受け入れである。長崎県でも地域、そして産業の担い手として外国人の受け入れと定住政策の拡大をすすめている。これまで外部に開かず、内に閉ざしてきた地域ほど住民の高齢化と人口減少が深刻であるが、地元住民以外の人々への警戒心も強い。外部からの移住者、外国人住民に対する先入観から、外部移住者と町の人々とのコミュニケーションを難しくしているという現状もある。

長崎県の県北の中心地域としての佐世保市も、同様の課題に向き合っている地域である。三川内町は、その佐世保市中心から車で20分ほどのところにあり、今回連携実践を行った三川内山と呼ばれる地域は、古来より窯業がさかんな歴史ある地域である。三川内山でも、以下のような課題を抱えている。

- ①佐世保市中心地から近いという利便性から、これまで窯業を生業としてきた住民とは異なるサラリーマン世帯住民が増加したため、町づくりへの意識が希薄化した。
- ②若者の流出が続いており、地域の高齢化が進んでいる。
- ③地元の伝統行事を支えてきた窯業を生業としている住民は減少、就労構造が変化している。
- ④住民世帯数に対して、地元の伝統行事、窯業に由来する祭り等が多く、その担い手、継承者が少ない。

成澤(2022)は「伝承地は何処も地方の小さなコミュニティであり、財源も少なく、少子高齢化や人口減少の影響による行事の継承課題を抱えている」(成澤 2022:251)と述べている。三川内山地域にも同様のことが見受けられる。

こうした課題から、三川内山地域では町づくり部を発足、新たな町づくりを模索してきた。この町づくり部から本学に相談があったことが、今回の連携実践につながった。

本学は県北地域一外国人留学生が多い大学である。留学生というくくりで見ると、「日本で学ぶ学生」という視点になるかもしれない。しかし、留学生も佐世保市に住む一生活者としての外国人である。地域規模は異なるが、留学生を対象に町の住民としての意識を調査した結果によると、多くの留学生が「町の一員として、町に参加したい」と考えていることが分かっている(佐野 2021)。

本学の日本人学生も佐世保市外、県外から来ている学生が多い。自分の出身の地元にも伝統的な祭りがあるが、実は参加をしたことはないという声も聞かれた。しかし、三川内山地域における実態、地域の人々との交流の中で、あらためて自分の地元のあり方や伝統行事存続に危機を感じたという。こうしたことから、外部参加者として、本学の学生が参加することには、町や地域を自分たち市民の力でつくるという自治(ガバナンス)の意識にもつながると考えられる。

熊谷(2022)は、地方地域の少子高齢化、人口減少による課題に対し、移住者、外国人の受け入ればかりを強調するのではなく、その受け入れた人々や、観光客などの「関係人口」とどのように地域をつくっていくのかを考える必要があることを指摘している。

本稿では、「三川内山地区に興味を持って訪ねてくる人、観光客、数年佐世保市内や三川内町近辺に在住する人(学生、留学生を含む)」を関係人口ととらえる。本記録は三川内山最

大の祭り、「三川内山おくんち」において、関係人口、外部参加者と地元の人々がどのように伝統文化行事を行うのか、また、どのように「三川内山おくんち」をともに行ったのか、その連携実践を記録したものである。この連携実践における伝統行事継承の可能性や、町づくりについての論考は、別の機会に譲る。

2. 連携実践の概要

2023 年 10 月 22 日（日）「しめ縄作り」、24 日（火）「夜神楽・前夜祭 当夜太鼓を叩く」、25 日（水）「おくんちに参加する」、2 つの地域伝統行事に、本学の学生が連携実践者として参加した。詳細は 4 章及び 5 章に記録する。

3. 連携実践地（三川内地区）の概要

3.1 地理

三川内地区は佐世保市の東部に位置している。東部は波佐見町、南部・西部は早岐町、北西部は日宇地区、北東部は有田町に接している（三川内地区生涯学習推進会 1991）。三川内地区は山岳丘陵に囲まれ、多くの木々が生い茂り、自然と調和して共生している。市内から離れており、静かな地区である（写真 1～4）。



写真 1



写真 2



写真 3



写真 4

（2023 年 10 月 22 日 金撮影）

3.2 人口

三川内町は、1990 年の調査によると 1481 世帯、人口 5131 人であるとされているが（三川内地区生涯学習推進会 1991）が、2021 年の調査によると 1816 世帯、人口 3843 人である（佐世保市 2022）。31 年間で、1288 人減少し、25%程度減った。三川内地区は少子高齢化の傾向にあると言える。

3.3 気候

佐世保市は南部、西部が海から近く、海洋の影響を受けることが多いが、三川内町は厳寒の 1 月、2 月になっても零下になることが少ない。最も暑い 8 月でも、最高気温が 35 度を越えることも少ない。したがって、厳冬でも雪は少なく、雨量は比較的多く、湿度も高い地域である（三川内地区生涯学習推進会 1991）。

3.4 自然災害

海から近いため、台風や豪雨による自然災害が最も多い。三川内地区は、山岳丘陵の間に位置するため、豪雨や地震などの際には山崩れが発生することもある（三川内地区生涯学習推進会 1991）。

3.5 産業

3.5.1 農業

耕地は小森川沿岸と谷間にあり、面積は狭い。本地区を流れる小森川を主な農業用水とする。あまり肥沃ではないが、様々な農産物に富んでいる。重要な農産物は米、麦、芋などである（三川内地区生涯学習推進会 1991）。

3.5.2 窯業

16 世紀末(1598 年)、平戸藩主・松浦鎮信（まつうらしげのぶ）は、朝鮮から連れ帰った陶工・巨関他 100 名をもって、平戸・中野村で築窯した。これが中野焼の由来である。巨関の子・三之丞（さんのじょう）は、良い陶土を求め、日宇村の藤原山（ふじわらやま）で築窯した。さらにその後、三之丞は、より良い陶土を求めて 1650 年に三川内に移った。技術を磨くため、三之丞は肥前（ひぜん）の様々な窯場を見学し、三川内で窯を焼いてみた。いわゆる平戸藩窯の基礎を築いた。

一方、その頃、高麗媼（こうらいばば）という朝鮮陶工が、（佐賀県）中里茂右衛門（なかざと もえもん）と結婚し、中里贅（なかざと えい）と名乗るようになった。えいは、夫がまもなく他界したため、子の茂右衛門を連れて三川内の長葉山に移住した。ここで三之丞と力を合わせて、三川内における創業に取り組んだ。その後、三之丞の子・弥次兵衛如猿が、1662 年に天草陶石と三ッ岳の網代土（あじろ）を混ぜ、純白の三川内焼を完成させた。

1668 年には御代官所などを築き、弥次兵衛（やじべえ）の下に二十余人の選抜陶工を召して各二人扶持の外に出勤扶持を給された。三川内焼は、1699 年に平戸藩の御用窯として皇室への献上品ともなっていた。17 世紀からは海外へ輸出し、ヨーロッパで高い評価を得た。同時に、安い日用品を作る民窯も盛んになっていった。三川内焼は数百年にわたって発展し、今日に至っている。

上記の内容は『佐世保市政七十年史上巻』、『平戸藩御用窯総合調査報告書』、『三川内窯業沿革史』、『三河内焼業元今村氏文書』を参考にし、まとめ直したものである。各々の記述には諸説、相違がある可能性がある。本記録の目的は、正確性を追求するものではないため、これら歴史の正確性については他の論考に譲る。

3.6 三川内山の生活

戦前の食事：

- 米：白米を食べるのは正月、お盆、おくんちなどの時に限られていた。普段は、トンキン米、シャム米などと当時呼ばれていた安い外国産米を食べることが多かった。
- 麦：米と麦を混ぜて炊く。
- 芋：芋飯、芋粥、芋団子などを作る。
- あわ：餅米（もちごめ）とあわを混ぜてふかした「あわ餅」を作る。
- 寿司：桃の節句（せっく）、花見、さなぼり、くんちの時に食した。おくんちには、「平戸寿司」を作ることが習慣である（佐世保史談会 2002）。

おくんちの祝膳準備：

「もろぶた寿司」は長崎県で古くから伝わる押し寿司であるが、三川内山地域では「平戸寿司」と呼ばれる類似の寿司を作ってきたという（以下、三川内山地域に関する記述には「平戸寿司」を用いる）。写真の「もろぶた寿司」の主な使用食材は、米、鯛、ごぼう、タケノコ、干し椎茸、干し大根、高野豆腐、ちくわ、卵、寿司でんぶである（写真 5、6、農林水産省）。



写真 5 もろぶた寿司 (引用)



写真 6 もろぶた寿司 (引用)

3.7 交通

- JR 博多駅⇒早岐駅⇒三河内駅（約 110 分）
- 福岡・九州自動車道⇒西九州自動車道・佐世保三川内 IC（約 85 分）⇒タクシー乗り換え（約 5 分）
- 長崎市・長崎自動車道⇒西九州自動車道・佐世保三川内 IC（約 45 分）⇒タクシー乗り換え（約 5 分）
- 長崎空港・佐世保行きバス⇒早岐田子の浦（約 70 分）⇒タクシー乗り換え（約 5 分）
- 佐世保市から車で（約 30 分）
- ハウステンボス・長崎国際大学から車で（約 20 分）
（図 7 参照）



図 7 三川内の地図 (陶芸 ZANMAI.com より転載)

4. 令和 5 年度三川内山おくんちの連携実践記録

4.1 三川内山おくんち

三川内山では、陶祖神社の如猿（じょえん）祭り、八坂（やさか）神社祭り、天満宮祭礼、金刀比羅（こんぴら）大神宮祭りを四大祭りと呼んでいる。このうち、天満宮祭礼は三川内地区最大の祭りで、三川内くんち、三川内山おくんちと呼ばれている。毎年 10 月 24 日（前夜祭）と 25 日に祭礼が行われる。祭神は菅原道真（すがわらのみちざね）である。祭礼は、25 日のくんちは神輿（みこし）として神楽（かぐら）を奉納する。神賑行事の行列は、露払い（つゆはらい）、太刀持（たちもち）、榊持（さかきもち）、天狗幟持（てんぐはたもち）、神官 6 名、太鼓持（たいこもち）、御輿（みこし）、賽銭箱持（さいせんばこもち）、子供行列、花車（はなぐるま、だし、きゃしゃ、かしや）、踊子の順である。お旅所の大神宮、児童（じどう）公園、陶祖神社では、神楽（かぐら）踊りが奉納披露される。おくんちには、各家で「平戸寿司」、「ひらにしめ」（煮染め）を作って祝う（3.6.1、写真 5,6）。令和 5 年度から、婦人部による踊りの披露はなくす方向となった。

三川内山おくんちについては、詳しい記録が残っていない。そのため、本学佐野香織研究室では、「おくんちの記憶」プロジェクトとして、三川内山地区の住民に聴き取りを行ったものを動画¹としてまとめ、この動画を使った本学学生との対話会を開催した。

¹ おくんちの記憶 <https://www.youtube.com/watch?v=VSFFCHtvzKU>、おくんちの記憶 今昔 <https://www.youtube.com/watch?v=cShwPJq5is>（資料参照）



写真 23（再掲）（2023 年 10 月 25 日 金撮影）

令和 5 年三川内山おくんちの様子。写真には写っていないが、露払い（つゆはらい）がおり、その後に天狗幟持（てんぐはたもち）、太刀持（たちもち）、櫛持（さかきもち）、神官 6 名、太鼓持（たいこもち）、御輿（みこし）、賽銭箱持（さいせんばこもち）、子供神輿（みこし）子供行列、花車（はなぐるま、だし、きゃしゃ、かしや）と続いている。三川内山の花車は大音量で昭和歌謡を流すことが特徴である。

令和5年度 スケジュールおよび事前準備

| | | |
|---------------|--------------------------|---|
| 10月9日 (月) | 1. 注連縄用藁を束ねてすく | ・担当区数名 ・作業内容： ◎藁をかける柵を作る ◎刈った藁を束ね、すく作業 |
| 10月15日 (日) | 2. 天満宮清掃 | ・担当区以外の区の20名程度で清掃を行った ・清掃内容： ◎神殿・参道の清掃、手洗水の清掃 ◎神輿の清掃 ◎神殿内にじゅうたんを敷く |
| 10月22日 (日) | 3. しめ縄制作 しめ縄取り付け | ・担当区、各区補助員、長崎国際大学生 ・作業内容： ◎9日に干した藁でしめ縄を作る ◎2班に分かれて同時進行で制作 ◎出来たしめ縄を鳥居に設置する ◎灯籠の運搬 ◎この時に灯籠も設置 |
| 10月23日 (月) | 4. 竹切り 階段・参道 しめ縄張り | ・担当区（7:30～竹切り開始） ・担当区と各区補助員（竹切り後8時頃作業開始） ・作業内容：階段・参拝道にしめ縄を張る御幣・下がりの取り付け・御旅所（おたびしょ）作り ◎天満宮～参拝道 担当区中心 ◎御旅所公園 担当区以外の区 ◎陶祖神社下 担当区以外の区 ◎天照皇大神宮 前田円常寺町内会に依頼 |
| 10月24日 (火) | 5. 祭礼用具運搬 | ・担当区と各区補助員 ・作業内容 ◎公民館より天満宮祭礼で用いる道具を境内まで運ぶ |
| 10月24日 (火) | 6. 前夜祭 当夜太鼓 | ・17時境内集合 御神酒 ・18時30分～前夜祭 （神主・総代・会長・区長・担当区・長崎国際大学生・子供会・その他招待者） ・20時～22時まで当夜太鼓 |
| 10月25日 (水) | 7. 祭礼当日 | ・朝10時より祭礼 ・祭礼終了後神輿・行列 ・公園御旅所で休憩 ・最終地点到着 ・陶祖神社到着 ・天満宮に到着 |

4.2 しめ縄作り

- 時間：2023 年 10 月 22 日 9 時半～17 時
- 場所：佐世保市三川内町三川内山地区
- 参加者：佐野（教員）、長崎国際大学の学部生、留学生、大学院生（7 名、見学参加）
三川内山地区住民 22 名

三川内山は 1 区から 5 区に分かれており、毎年順番におくんちを行う。今年は 1 区の人々が担当して行う（2023 年 10 月現在、1 区：48 人、2 区：35 人、3 区：30 人、4 区：25 人、5 区：35～40 人）。町内会は婦人部、まちづくり部、体協部、育成部…等に分かれる（中里智徳氏、中里太陽氏談）。

●しめ縄の起源：

古事記、日本書記に書かれた天照大神（あまてらすおおみのかみ）の神話だと言い伝えられている。その昔、岩戸（いわと）にこもった天照大神を神々が連れ出した際「もう二度入らないように」と岩戸にしめ縄をつけたとされている説もある（笠原 2019）が、諸説ある。

●手順

(1) 作業の前に、お酒、こんぶ、するめを食べる（写真 8）。

- お酒：体を清めて、神様への敬意を表す（お神酒 おみき）
- こんぶ：昆布⇒よろこぶの「喜ぶ」の語呂合わせ。縁起物である。
- するめ：代表的な縁起物として古典的な儀式で使われている。

結納品として「寿留女」の当て字を用い、女性の健康や子宝を願う象徴となっている（三川内町民談）。



写真 8（2023 年 10 月 22 日 金撮影）

(2) しめ縄の作り方

①藁選り（わらすぐり）。稲の茎（くき）以外の部分を大きな櫛（くし）のような道具で落とし、きれいな茎だけを選ぶ（写真 9）。

藁を選別した後は、石と木づちで藁を叩き、藁を柔らかく編みやすくしておく（写真 10）。束の中心から藁を数本抜き出し、先を束ねて縄の素となる藁束をつくる（写真 11）。



写真 9



写真 10



写真 11

(2023 年 10 月 22 日 金撮影)

②藁束が多数用意が出来たら、主に以下のような役割分担で縄をつくっていく（写真 12）。

- ・藁を時計方向に回しねじる人
- ・藁を針金で縛る人
- ・縄の藁の量を調整する人
- ・太さを確認し、調整を行う人

力のある人がねじる、針金で縛る担当になり、長年の経験を持つ、長老にあたる人が調整役に廻っていた。あらかじめ用意しておいた藁を束ねておき、真ん中に藁を加えながら時計回りに巻いて、針金で縛る。約 4 メートルほどの長さで、余分な藁をはさみで剪定する。作った 3 本の縄を X 状に結び、さらに 1 本の大しめ縄にまとめる。この過程で、これまでのおくんちの思い出話、昔話などが語られ、若手はそれを聞きながら作業を行っていた。

③さがりを作る。縄を 2 回結び、その回りに藁を巻きつけ、針金で留める。縄の方の藁を針金の方向に折っていく。藁きりで、長さを合わせて切って完成。さがりは 3 本を作る（写真 13、14）。



写真 12



写真 13



写真 14

(2023 年 10 月 22 日 金撮影)

④組み立てる。四つの御幣（ごへい）を藁の間にかけ、御幣の間に 3 本のさがりを置く（写真 15、16）。

「御幣とは、神々への捧げ物を意味し、貴重品を示す「幣」に、尊称の「御」を付けたものである」（三川内町民談）。



写真 15



写真 16

(2023 年 10 月 22 日 金撮影)

⑤本学学生との連携の様子

藁の束ね方の教示を地元の方から受けながら、藁を中心に自然に輪となって束ねた。分からないながらも、地元の方のこれまでの三川内山おくんちの様子、子どもころの話などを聞きながら行った。

(3) 神社の準備

- ・掃除する。神社の階段掃除、床を拭くなど。
- ・神様に食べ物を備える。

「お供えする食べ物は、酒、米、塩、鯛、野菜、（大根、ごぼう、蓮根、白菜）、果物（りんご、バナナ、ナシ）など」（三川内町民談）

4.3 前夜祭 夜神楽・当夜太鼓

- 時間：2023 年 10 月 24 日 18 時半
- 場所：佐世保市三川内町の天満宮
- 参加者：佐野、撮影者、長崎国際大学学生、大学院生 5 名（見学）
地域住民、中学生、各地区の代表者など（約 20 名）
- 神事：天満神社宮司 堤暢亨（つつみのぶあき）氏
- 前夜祭・夜神楽太鼓の様子

本来は、平戸から平戸神楽を呼び夜神楽を舞うものであったが、近年は予算の関係で神事のみとなり、夜神楽を省略している（三川内山地区住民談）。令和 5 年度も夜神楽はなかった。太鼓も、当夜太鼓として一晩中、かわるがわる住民が叩くものであったが、近年は近隣住民からの苦情もあり、22 時を目途に終わることにしている（三川内山地区住民談）。

(1) お神酒として酒を供える（写真 17）。

(2) 宮司は総代（そうだい）に玉串（たまぐし）を渡す。その後、地区の代表者、地元の中学生在が順番に玉串を神様に捧げ、二礼二拍手一礼で祈る（写真 18）。神様に供えるもの「神籬（しんせん）」は、米・酒・魚・野菜・果物・塩・水等である。今回は本学学生も玉串を捧げた。



写真 17



写真 18

(2023 年 10 月 24 日 金撮影)

(3) 太鼓を叩く宮司 (写真 19)

地元の人とともに学生も太鼓を叩かせていただいた。



写真 19-1 (2023 年 10 月 24 日 金撮影)



写真 19-2 (2023 年 10 月 24 日 佐野撮影)

(4) 地区の住民が集まって食事をし、祭りの前夜を祝う。本学学生も参加し、これまでのお話を聞いた (写真 20)。

(5) 神様に供えた米を家に持ちかえり、ご飯を炊き食すことで神様のお力をいただく (写真 21)。



写真 20



写真 21

(2023 年 10 月 24 日 金撮影)

5. 三川内山おくんち当日の連携実践記録

5.1 概要

- 時間：2023 年 10 月 25 日 9 時～14 時
- 場所：佐世保市三川内町天満宮
- 参加者：佐野、東出（教員）、長崎国際大学学部生、大学院生（22 名参加）
地元参加者（50 人（概算）途中参加あり）

三川内山おくんちが始まった時期の記録は残されていないが、三川内山地域住民によると、歴史上、三川内山おくんちに地域住民以外の外部の人（外国人も含む）が参加をしたのは、今回が初めてであるという（三川内山住民談）。

- 担当代表：三川内山地区 1 区 中里智徳氏（天満宮総代）
- 神事：天満神社宮司 堤暢亨（つつみ のぶあき）
山口神社宮司 吉福悦久（よしふく のぶひさ）
須佐神社宮司 町田道教（まちだ みちのり）
淡島神社 千北雅博（ちぎた まさひろ）

三川内山の天満神社（天満宮）には常駐の宮司はおらず、住吉神社宮司でもある堤氏が兼任で行っている。

●くんちの由来：

「くんち」は、旧暦の 9 月 9 日を重陽の節句として祝う中国の風習とされている。九州北部地方の方言では 9 日（くにち）を「くんち」と呼んでいる²。

5.2 三川内山おくんちに用いる用具

- 天狗面と衣装（写真 22）
- 奉納幟（ほうのうのぼり）：

奉納幟とは、神社の本殿までの通りなどに掲げる縦に長い旗（はた）である。奉納の文字や奉納日、神社、紋などが入っている。奉納幟の梅は、縁起の良い花として好まれている（三川内町民談）（写真 23）。



写真 22



写真 23

（2023 年 10 月 25 日 金撮影）

令和 5 年三川内山おくんちの様子。写真には写っていないが、露払い（つゆはらい）がお

² 長崎くんちとは <https://nagasaki-kunchi.com/about/>

り、その後に天狗幟持（てんぐはたもち）、太刀持（たちもち）、櫛持（さかきもち）、神官 6 名、太鼓持（たいこもち）、御輿（みこし）、賽銭箱持（さいせんばもち）、子供神輿（みこし）子供行列、花車（はなぐるま、だし、きゃしゃ、かしや）と続いている。三川内山の花車は大音量で昭和歌謡を流すことが特徴である（再掲）。令和 5 年度は本学学生が参加するということで、最近の J-pop も流されていた。

●太鼓：

太鼓はお祭りや神楽、歌舞伎などの伴奏楽器として使われている。悪霊払いにも広く用いられている（三川内町民談）（写真 24）。

●子供神輿



写真 24



写真 25

（2023 年 10 月 25 日 金撮影）

5.3 三川内山おくんち 当日の流れ

| 時間 | 内容 |
|-------|-------------------|
| 9：00 | 衣装、神輿などの準備 |
| 10：00 | 神事、平戸神楽 |
| 10：30 | お下り |
| 11：00 | 神社の下で三川内山の子供神輿と合流 |
| 11：20 | 神輿、行列 |
| 11：50 | 大神宮に到着、神事 |
| 12：20 | 公園御旅所で休憩 |
| 12：50 | 陶祖神社に到着 |
| 13：20 | 天満宮に到着、神事 |
| 13：30 | お上り 神社に戻る、神事 |
| 14：00 | 「平戸寿司」で労い合う |

● 三川内山おくんちの様子

- (1) 御神輿（みこし）の準備（写真 26）。
- (2) 祭礼の白装束を着用、神様への敬意を表す（写真 27）。



写真 26



写真 27

(2023 年 10 月 25 日 金撮影)

(3) 若者の衣装の後ろにお小遣いの「御花」をつける。開催者、関わった人へのお祝いである (写真 28)。



写真 28 (2023 年 10 月 25 日 金撮影)

(4) 宮司が神事を行う。神楽を舞い、横笛 (よこぶえ) を吹き、太鼓を叩く。神様を神輿 (みこし) に招き入れる (写真 29～31)。



写真 29



写真 30

(2023 年 10 月 25 日 金撮影)



写真 31 (2023 年 10 月 25 日 佐野撮影)

(5) 神事後、御輿や太鼓を担ぎ、御旅所を巡る「お下り」(写真 30、32)。

(6) 神社下で三川内山の子供たちと合流し、子ども神輿と共に町を巡る(写真 33)。



写真 32



写真 33

(2023 年 10 月 25 日 金撮影)

(7) 歩きながら太鼓をたたく(中国人留学生)。町の人が御賽銭(おさいせん)箱にお金とお菓子を入れていく(写真 34、35)。



写真 34



写真 35

(2023 年 10 月 25 日 金撮影)

(8) 大神宮にて。宮司らは横笛(よこぶえ)を吹き、祝詞(のりと)をあげる(写真 36~38)。



写真 36



写真 37



写真 38

(2023 年 10 月 25 日 金撮影)

(9) 公園に到着。神輿を広場の中央に置く (写真 39)。

(10) 陶祖神社にて (写真 40)



写真 39



写真 40

(2023 年 10 月 25 日 金撮影)

(11) 天満宮に戻る (お上り)。神様が神社に戻る神事を行い、おくんちが終わる (写真 41、42)。



写真 41



写真 42

(2023 年 10 月 25 日 金撮影)

(12) おくんち終了後、皆で一緒に三川内町民手作りの平戸寿司、紅白餅等を食べ、おくんち開催・参加を労う（写真 43）。



写真 43 (2023 年 10 月 25 日 金撮影)

文献

- 熊谷嘉隆（2022）「序章 人口減少・超高齢社会と外国人の包摂―秋田県の事例から新たな地域社会づくりを展望する」熊谷嘉隆（監）成澤徳子（編代）『人口減少・超高齢社会と外国人の包摂』明石書店、pp.11-23.
- 佐世保市（2022）「令和3年 佐世保市統計書（第32回）」佐世保市佐世保市史編纂委員会（1975）『佐世保市政七十年史上巻』隆文社、pp.51-54.
- 佐世保史談会（編）（2002）「平戸藩御用窯総合調査報告書」佐世保史談会、pp.1-4.
- 佐野香織（2021）「「市民として社会にかかわる契機としての「まちのことばをつくる」プロジェクトの可能性」『長崎国際大学論叢』第21巻、pp.71-78.長崎国際大学
- 高橋久満治（1911）『三川内窯業沿革史』館林活版所、pp.3-7.
- 成澤徳子（2022）「男鹿のナマハゲ行事と外部参加者」熊谷嘉隆（監）成澤徳子（編代）『人口減少・超高齢社会と外国人の包摂』明石書店、pp.249-264.
- 久村貞男（2014）『三川内窯業史』芸文堂
- 三川内地区生涯学習推進会（1991）『三川内地区郷土史』隆文社
- 渡辺庫輔（1958）『三河内焼業元今村氏文書』親和銀行長崎支店、pp.45-74.
- 陶芸 ZANMAI.com「三川内焼（交通アクセス）」
<http://toungeizanmai.com/tabitetyou/026/akusesu.htm>（2024年2月20日最終閲覧）
- 笠原信男（2019）「注連縄と七五三縄」
<https://www.thm.pref.miyagi.jp/wp-content/uploads/2019/05/17612029352cbf0bc27785dfdef610b0.pdf>（2024年2月20日最終閲覧）
- 長崎くんち「長崎くんちとは」<https://nagasaki-kunchi.com/about/>（2024年2月22日最終閲覧）
- 農林水産省「押し寿司（もろぶた寿司）」長崎県
https://www.maff.go.jp/j/keikaku/syokubunka/k_ryouri/search_menu/menu/46_16_nagasaki.html（2024年2月20日最終閲覧）
- 飛騨美濃山語り「酒好きの天狗様と天ヶ岩」
<http://www.hidatakayama.ne.jp/yamagatari/yamagatari/katari/tenga.htm>（2024年2月20日最終閲覧）
- 文化庁（2024）「令和5年度都道府県・市区町村等日本語教育担当者研修」資料10長崎県報告
https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kyoiku/todofuken_kenshu/r5_annai/pdf/94008101_11.pdf（2024年2月20日最終閲覧）

資料

1. 2021 年度～2023 年度 研究成果および成果物

1) 学会発表

佐野香織 (2021) 「まちの新たな「伝統文化」を「つくる」可能性を探る」第 34 回日本語教育連絡会議 (ヴィータウタス・マグヌス大学・2021 年 8 月オンライン開催)

佐野香織 (2023) 「他者とともに生きることばの活動から考える「三川内山おくんち」の語り」JSAA-ICNTJ2023 豪州日本研究学会研究大会/国際繫生語大会 (シドニー工科大学・2023 年 9 月オーストラリア開催)

2) 講演

佐野香織 (2022) 「伝統行事・地域文化の継承／ケイショウを考える ―三川内山おくんちの記憶プロジェクトから」長崎県神社庁 長崎神道青年会教養研修会 講演 (2022 年 12 月 21 日)

3) 「おくんちの記憶」プロジェクト

①三川内町山の祭りの記憶

三川内山町民にインタビュー調査を実施、これを基に三川内山おくんちにまつわる語りを「おくんちの記憶」として動画を作成し、YouTube にて公開した。下記より視聴可能である。

動画 URL・QR コード

三川内山おくんちの記憶

<https://www.youtube.com/watch?v=VSFFCHtvzKU>



三川内山おくんちの記憶 今昔

<https://www.youtube.com/watch?v=cShwPJog5is>



②三川内町はまぜん祭りにて「おくんちの記憶」動画視聴会を企画、開催した。

(2022 年 5 月 3 日 三川内山町)

新聞掲載記事

「「三川内山おくんち」を守りたい！ 長崎国際大生が記憶プロジェクト」

<https://www.nagasaki-np.co.jp/kijis/?kijiid=933201900236029952>



③2023 年 5 月 3 日 はまぜん祭り参加

佐野香織研究室ゼミ生が三川内山地域のはまぜん祭りにて、2 年次に取り組んできた

「お茶プロジェクト」成果とあわせ、そのぎ茶×三川内焼の器のコラボレーションを行った。そのぎ茶の販売を行うと共に、地元の方とかかわり協働する機会となった。

④2023 年 10 月 25 日 令和 5 年度三川内山おくんち 連携実践

掲載新聞記事

「長崎国際大生 おくんち存続に一役 佐世保・三川内山 みこし担ぎ、動画撮影も」

<https://www.nagasaki-np.co.jp/kijis/?kijiid=1093728774653624388>



4) 令和 5 年度 三川内山おくんち 連携実践 動画

令和 5 年 10 月 22 日 しめ縄準備から 10 月 25 日 三川内山おくんちまで

https://youtu.be/iyu9_uQNoGQ



2. 三川内山おくんち実施後アンケート調査

調査日と実施場所

調査日：2023 年 10 月 25 日

実施場所：三川内山天満宮

質問内容

| 三川内山おくんち 町民主催者アンケート | 三川内山おくんち 参加者アンケート |
|--|---|
| 三川内山おくんちは 4 年ぶりの開催となりました。準備から当日まで全体を通してのご感想をお聞かせください。 | おくんちに参加してどうでしたか？ How was Okunchi Festival? Please share your thoughts. |
| 三川内山おくんち当日、初めて三川内山の住民以外の人（外国人を含む）が参加し、いっしょに神賑行事をしました。今回の経験、感じたこと、今後への思いなど自由にお書きください。 | おくんちは町の人まつりです。まちの人ではない人が参加することについてどう考えますか？ What do you think about the participation of outsiders in local festivals though Okunchi is very local-closed festival? |
| 今後、日本全国で地域と大学が連携してその地域を盛り上げていくことが増えていくことが予想されます。こうした連携に関する考えをお聞かせください。 | |

調査結果

三川内山おくんち 町民主催者アンケート結果

| | | | |
|-------|---|--|--|
| 町民主催者 | 1. 三川内山おくんちは4年ぶりの開催となりました。準備から当日まで全体を通してのご感想をお聞かせください。 | 2. 三川内山おくんち当日、初めて三川内山の住民以外の人（外国人を含む）が参加し、いっしょに神賑行事をしました。今回の経験、感じたこと、今後への想いなど自由にお書きください。 | 3. 今後、日本全国で地域と大学が連携してその地域を盛り上げていくことが増えていくことが予想されます。こうした連携に関する考えをお聞かせください。 |
| 主催者 1 | 当番区として準備を始めたものの、久しぶりの開催で皆さんから賛同を得て、進めるのが大変でした。ただ苦勞して出来たしめ縄や前夜祭の厳かな雰囲気を感じて、本当にやって良かったと感動しました。あまり遠い未来を考えるよりも、今町にいる人たちとおくんちを共有して、楽しむことが大事だと思いました。今を楽しむことが未来につながり、継続性が生まれ、おくんちが続いて言ったら良いなと思います。 | 令和の新しいおくんちのスタイルとして、いろんな立場の人が協力してするお祭りは活気づいて良かったと思います。外国人やほかの地域から、三川内のおくんちがどんな風にみえるかとても興味があります。 | とても素晴らしいことと思います。大学に協力頂くことで、学問的にもその地域をみて、文化的価値をみんなで再認識してさらに高め、それが次につながると思います。 |
| 主催者 2 | 久しぶりの開催で、新たな気持ちで迎えることが出来ました。作業の今に合わせた簡略化もいい形で進めたと思います。 | 学生さんの協力も非常に助かりましたし、継続して協力頂くとおくんちも賑わい、町民の賛同ももっと活性化していく感じがしました。学生の国や、出身地のことでの交流も出来良かったです。 | 地方のお祭りは、一番は20.30代の人員不足なので大学との連携は、継続という面でとても有意義だと思います。また、連携をきっかけに町が賑わうと、町外に住む町出身者の祭り時の帰省による協力も得られる可能性がでて来るので、いい方向に向かう気がします。 |
| 主催者 3 | 踊り等が無くなったが、時間短縮になっていない。5区での催しが長すぎる。このような状況であれば、公園での食事(おにぎり)が必要なのではないか。 | 学生のなかでもやる気がある者ない者がいて、連帯感がないように感じた。 | 今後も積極的に学生を活用してもらいたい。 |

| | | | |
|-------|--|---|--|
| 主催者 4 | よかったよかったです！ | 新鮮 | いいと思います。 |
| 主催者 5 | 今回は、参加出来ませんでした。1日に話しを聞きましたので来年の参考にします。 | 留学生と話し出来る事を楽しみにします。 | 事故につながらないように打ち合わせを十分行なう事が、重要だと思います。 |
| 主催者 6 | 忘れた事も多くて戸惑いましたが、ロートル組の意見も少なく、やりやすい面もあった。 | 海外の青年が参加する事に違和感は、無かった、が地域の神事に関するレクチャーをすべき！訳も分からず参加する姿は、少々つらいと思った。 | その昔、奴隷たちがコンチキ号を海まで引いた事実を、カイロ大学の学生達が奴隷に変わって船を引く姿を思い出した。 |

三川内山おくんち 参加者アンケート結果

| 出身地 | おくんちに参加してどうでしたか？ How was Okunchi Festival? Please share your thoughts. | おくんちは町の人のみです。まちの人ではない人が参加することについてどう考えますか？ What do you think about the participation of outsiders in local festivals though Okunchi is very local-closed festival? |
|------|---|--|
| 1 日本 | very hard とても重かった | 盛り上がるのならそれもいいと思う。町の人だけで行うのは限界があると思う。 |
| 2 日本 | このような祭りに参加したのが初めてで少し楽しみな部分と自分たちが参加していいのかという不安があったが、地域の方々があたたかく迎えてくださって楽しく終えることができた。 | 街以外の人に参加することはよくないことではないかという考えがあったが、今回迎えてもらって外の人間が参加することも文化を拓けるという意味では良いのではないかと思った。 |
| 3 日本 | 自分の町ではないお祭りに参加することは初めてでしたが、地域の方が心よく向かい入れてくれたこともあり、楽しくいい経験をすることができました。 | 伝統のある文化を途絶えさせないためにも、違う町の人でも若者が参加することはいいとこだと思います。 |
| 4 日本 | 見る側しか参加したことなかったがやる立場に参加することで地元の方の思いを感じることができた。声を合わせてみこしを担ぎ、助け合いながら参加する地元の方をみて素敵な町だなと実感した。 | 私も地元の祭りに参加することがあまりなかったけれど実際に参加し楽しかったのでこのような機会をまたすれば参加する人数が増えると思う。 |
| 5 中国 | よかったです | 面白かったと思っています |
| 6 中国 | 楽しかったです | 留学生は日本の伝統文化をもっとよく理解することができる |

| | | |
|----------|--|--|
| 7 中国 | 疲れましたが、楽しかったです | まちの人ではない人に参加させて、日本伝統的のまつりについてたくさん勉強になりました |
| 8 イギリス | It was interesting and different to what I expected | They all seemed excited and some followed us all the way. |
| 9 スリランカ | 面白かったです | 日本に留学しているので、日本文化に興味を持って参加するのはいいことだと思います |
| 10 スリランカ | I like to this festival | Thank you for participating |
| 11 スリランカ | たのしかったです | I am very happy to be able to join the festivals of Japan with foreigners regardless of race |
| 12 ミャンマー | とても楽しかったです | ちょっと思う |
| 13 ミャンマー | 今日はとても幸せです | それはとても良いことであり、他の人もそれを知ることができます。 |
| 14 ミャンマー | 楽しい | サポートを受けながら他の人と話すことができる |
| 15 ミャンマー | それは面白い | 楽しむのは良いことだ |
| 16 ミャンマー | It is my first time participating in a Japanese festival. Today, I am really happy. The portable shrine is heavy but I really love to carry with other people. | From my point of view, it is really good. It is a cultural exchange and the outsiders like me(an international student) may learn and know more about Japanese cultures, traditions and religions. |
| 17 ミャンマー | たのしかったです。 | 日本の文化をべんきょうしました。 |

令和5年度長崎国際大学 人間社会学部国際観光学科 共同研究

「関係人口」がかかわる伝統文化行事の継承の意味を探る
ー三川内地域との連携実践を通して
連携実践記録

2024年3月1日 印刷

2024年3月1日 発行

編集 佐野香織

発行 長崎国際大学 人間社会学部 国際観光学科

〒859-3298 長崎県佐世保市ハウステンボス町 2825-7

TEL/FAX 0956-39-2020(代表)